

ユニークな
地質系博物館
(12)

ホッピーの町

—穂別町立博物館・穂別地球体験館

利光 誠 —¹⁾

ホッピーとは北海道勇払郡穂別町の後期白亜紀層から産出したエラスモサウルス科のクビナガリュウの愛称です(写真1)。穂別町のエゾ累層群はアンモナイトなどの白亜紀の軟体動物化石が豊富に産出することで知られており、当地の地名にちなんだ種名をもつ化石種もいくつかあります。町内の化石愛好家が発見したクビナガリュウ化石がきっかけとなって1982年に穂別町立博物館が設立されました(写真2)。その後もエゾ累層群からウミトカゲ、ウミガメなどの海生は虫類化石の発見があいついでいます。第三紀層からは無脊椎動物や植物化石に加え、デスモスチルス、クジラなどは哺乳類化石も産し、まさに脊椎動物化石の宝庫といった感じです。

最近の恐竜ブームで、各地で恐竜を展示の目玉としている博物館が多くなってきました。穂別町立博物館はこのような風潮の中で、自前の標本を素材として脊椎動物化石の復元骨格模型を展示し、さらに定期的な研究報告の出版もなされており、規模は小

さいながら“地に足の着いた”博物館といえます。

博物館の入口を入ると、ホールに体長約8mのクビナガリュウの骨格模型が展示されています(写真1)。展示室内にはティロサウルス(ウミトカゲ類)の復元模型(写真3)や白亜紀化石ウミガメと現生ウミガメの骨格模型の比較展示、コイワシクジラなどは哺乳類の骨格なども展示されています。さらにアンモナイト、イノセラムスなどを主とした白亜紀の海のジオラマ展示により、海洋生物の古生態などもうかがい知ることもできます。また壁面を用いて、穂別町の地質、頭足類・は虫類・ほ乳類の進化、白亜紀や第三紀の食物連鎖、脊椎動物にみられる収斂現象、化石のでき方などもわかりやすく解説されています。従って、単なる展示室ではなく、地質・古生物の生きた教科書として利用できるでしょう。

最近、町並みの模様替えにともない、歩道に「進化の道」として地球および生物の歴史の解説展示が

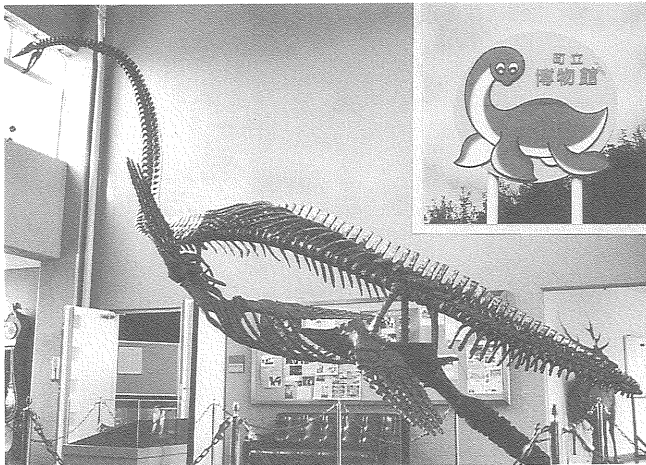


写真1

ホール内のクビナガリュウ復元骨格と博物館前にあるホッピーのイラスト入り看板(右上)。

1) 地質調査所 地質標本館



写真2 穂別町立博物館の全景。クビナガリュウの全身骨格をデザイン化した建物で、胴体部(左側)が展示室、頸部(右側)が研究室を含む管理棟。

なされ(写真4)、博物館に寄せる期待の大きさがわかります。

穂別町立博物館の向いにはもう一つの地球科学に関する展示施設として、穂別地球体験館があります(写真5)。ここでは地球上の神秘の世界を体験旅行しながら私たちの地球を環境などの面から見つめ直

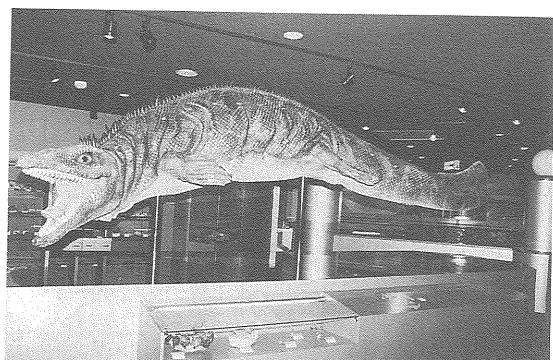


写真3 獰猛そうなティロサウルス(ウミトカゲ類:白亜紀)の復元模型。手前のケースに産出した骨格標本を展示。



写真4 「進化の道」の展示。町作りの一環として歩道を野外博物館に利用している。道路沿いの街灯には海生は虫類、アンモナイトなどの模型が飾られている。

そうという主旨で、ジオラマ形式の展示がなされています。展示は8つのゾーンに分かれ、高温多湿な世界や氷河期の世界などを体験し、地球温暖化やオゾンホールなどについてコンパニオンの解説を聞きながら“体験学習旅行”ができます。パスポートも発行され、旅行気分になります。博物館で勉強した後、遊び感覚で地球体験館を訪れるとよいでしょう。

所在地：〒054-02 北海道勇払郡穂別町字穂別
穂別町立博物館(Tel. 01454-5-3141)

入館料：大人300円、小学～高校生100円
(団体割引あり)

開館時間：9:30～16:30

休館日：月曜日、祝日の翌日、毎月月末、年末年始
穂別地球体験館(Tel. 01454-5-2341)

入館料：大人1000円、小人500円(団体割引あり)

開館時間：9:30～16:30

休館日：月曜日、祝日の翌日、12月～3月は閉鎖

TOSHIMITSU Seiichi (1993): Geological museum in Japan
12, “Hobetsu Museum”.

〈受付：1993年7月12日〉



写真5 穂別地球体験館の入り口付近。穂別町立博物館向い側に建てられている。